

《 CT・MRIにおける造影検査の説明書 》

〔食事について〕 副作用に伴う「嘔吐」が生じた際、「窒息」による二次的被害を防ぐため、検査前3時間は”絶食”をお願いいたします。

〔水分について〕 検査前は脱水状態による副作用発生を減らすために、検査後は尿による造影剤の排泄を促し遅発性の副作用発生を減らすために水分（水・お茶）を十分にとってください。

【 『造影剤』 について 】

造影剤とは造影検査を行う時に使用する薬剤の総称で、治療効果はありません。

CT検査では「ヨード造影剤」、MRIでは「ガドリニウム造影剤」と呼ばれる薬剤を使用します。造影剤を点滴を用いて体内（血管内）に注入してから、または注入しながら検査を行う『造影検査』は、造影剤を使用しない『単純検査』に比べ、より詳しい検査を行うことができ、症状・病変によっては、より確実な診断が可能となります。

造影剤は副作用が少ない薬剤ですが、稀に下記のような副作用を起こすことがあります。また、以前に造影剤を使用した際、何らかの副作用の症状が現れた方・気管支喘息の方・アレルギー（全般）体質の方、腎機能に障害がある方は造影剤副作用の発生頻度が高くなると報告されています。

このような方に造影剤を使用する・しないの判断は、造影剤を使用した場合に得る利益と危険性を熟考した上で主治医（検査担当医）が判断し、患者様本人の同意のもと検査を実施させていただきます。

【 『副作用』 について 】

副作用の重症度	軽度	吐き気・動悸・頭痛・かゆみ・発疹・などでこれらは無治療で軽快します。 この様な副作用が起きる確率は CTで約20人に1人（5%以下） MRIで約100人に1人（2%程度） です。
	重篤	呼吸困難・意識障害・血圧低下などで治療が必要になります。 このような副作用が起きる確率は 約2.3万人中に1人（0.004%）程度です。 極稀に重篤な症状（アナフィラキシーショックなど）により死亡する場合がありますが この様な副作用が起きる確率は CTで約40万人に1人（0.00025%） MRIで83万人に1人（0.00013%） です。

頻度は日本放射線学会誌2005年第65巻第3号資料より

造影剤による副作用の多くは検査中・検査直後に発症しますが、稀に検査終了後数時間から3日間以上経過してから発症することもあります。体調不良・異常が感じられましたら、躊躇せずに院内であれば近くのスタッフに、帰宅後であれば病院までご連絡ください。

【 『血管外露出』 について 】

造影剤を体内に注入は専用の装置（自動造影剤注入器）を用いて行います。

この装置には血管外漏出（起こる可能性は1%以下）を防ぐ機能が搭載されていますが、穿刺部位や患者様の状態により自動停止機能が作動しない恐れがあります。その場合コンパートメント症候群を発症し、外科的処置が必要になることがあります。

造影剤注入時、穿刺部位（点滴の針先）に痛みを感じた際には躊躇せずにスタッフに伝えて下さい。